



3月末でポーポキのおうちの周りにお花がたくさん咲いています。ポーポキはさくらに再会できるのがとてもうれしい。そして、みなさんも太陽のもとでお花にあいさつができるように祈っています。

Popoki's Hot News!



ポーポキは、フィジーでサイクロンウィンストンによって被害を受けた友だちに熱い思いとエネルギーをおくります！一日も早く復旧・復興ができますように！



ポーポキのピース・ブック3や『ポーポキ友情物語～東日本大震災で生まれた私たちの平和の旅』！ポーポキのピース・ブックシリーズの3冊目、『ポーポキ、元気って、なに色?』や、ポーポキのほかの本は、お近くの本屋さん、出版社エピック (<https://bookway.jp/epic/>)、神戸YMCA、ポーポキ・ピース・プロジェクトから入手できます。ご注文、およびご感想をお待ちしています。



「一言の平和」コーナー

ポーポキのお友だちのすざんかにゃんから届いた平和。

「チ〜チ〜チチュン おはよう！朝からスズメの可愛い歌とともに目が覚める。部屋に、あたたか〜い太陽の光、気持ちいい〜。窓でもあけてみようかな。クンクン、いい〜香り、何の花かな〜あ、お隣の猫たちがはしゃいでいる、朝から元気やんな。さ、起きて、朝ご飯をつくろうか。今日は、うん、甘〜い桜ジャムにしま〜す。春だ〜HARU!!! (〃)/とう。」

あなたは今日、どんな「平和」に出会いましたか？ぜひお聞かせください。ポーポキのメール [ronniandpopoki \(at\) gmail.com](mailto:ronniandpopoki(at)gmail.com) !



NEW! 瀬チャレンジ 2015 のビデオ!!! ポーポキの URL か下記のリンクでどうぞ!

<https://youtu.be/7LcYzZzNQYg> and <https://youtu.be/WYdWwmwogkE>

3月31日
お待ちしております！

ポーポキと一緒に平和を創り出す集会 ～ポーポキのミニ平和映画祭 その6～ 「津波！ 平和づくり活動としてのポーポキ友情物語」

2002年度から不定期に開催している「平和を創り出す集会」では、事実をできるだけ正確に知り、市民の視点から、平和を創り出すために私たちに何ができるのか、ともに考え語り合い、行動の糸口を探すひとときを持ってきました。

平和ってなに色？ 平和ってどんな形？
映像で「平和」を表現することは可能？
一緒に「平和」を考えてみませんか？
ポーポキも参加するんだよ！



マイカップを
ご持参
ください！



今回は、ポーポキ友情物語活動を中心にトークセッションを企画しました。
主に岩手県大槌町での津波の現状、動画や活動報告を踏まえて
おやつでも食べながら、みんなの想い、活動そして平和について話し合いましょう。

日 時： 2016年 3月 31日 (木) 18:30～20:30
場 所： 神戸YWCA
神戸市中央区二宮町 1-12-10 tel. 078-231-6201
参加費： 無 料 (YWCA・YMCA 国際協力募金活動にご協力願います)
主催：ポーポキ・ピース・プロジェクト、神戸 YMCA、神戸 YWCA

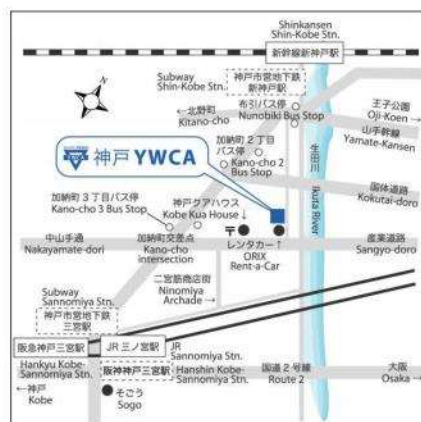
テーマ：津波！～平和づくり活動としてのポーポキ友情物語

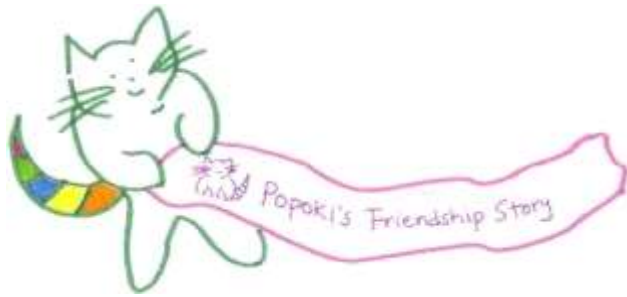
プログラム (予定)

- 18:30 ごあいさつ ポーポキ友情物語活動とは？
- 18:35 岩手県上閉伊郡大槌町における津波被害や現状を知る
動画 「がんばっぺしおおつち」 写真:伊藤陽子 (6分)
- 18:45 ポーポキ友情物語 初期の動画
 - ① ポーポキ友情物語 in 大槌町 2011年5月 (6分)
 - ② ポーポキ友情物語 in 大槌町 2011.8.15-19 (4分)
 - ③ ポーポキ友情物語 in グラム 2011.9.8-13 (4分)
 - ④ 2013年、2015年参加者 一言！
- 19:10 ちょっとお話ししましょう！
- 19:20 2016年2月の活動報告 動画&参加者報告
- 19:50 ディスカッション・共有・ふりかえり

お問い合わせ・お申し込み
ポーポキ・ピース・プロジェクト
ronniandpopoki@gmail.com
又は

神戸YMCA国際・奉仕センター (担当：松田)
〒655-0001 神戸市中央区加納町2-7-15
TEL (078) 241-7204
e-mail houshi@kobeymca.org





Popoki's Interview

聞き手：まいかにゃん、まゆこにゃん

話し手：ほにゃん（朴木佳緒留 先生）

先月のポーポキ友情物語@大槌に参加していたほにゃんにインタビューしました。とても興味深い話をして頂きました。

Q.なぜ今回のポーポキ友情物語@大槌に参加したのですか？

A.ロニー先生とは、20年くらい前からの知り合いでしたが、神戸大学で『男女共同参画とジェンダー』というオムニバス形式の授業のメンバーに入ってもらったことで、日常的に会うようになりました。その後すぐ東日本大震災が起きました。神戸大学では松岡先生の担当で、大船渡に2ヶ月に1回ボランティアバスが出ています。私はボランティアが始まった当時、研究科長として初期から携わり、大船渡と連携協定を結びました。研究科長が現場に行くわけにはいかないため大船渡に行けずにいましたが、それでも一度は行ってみたいと思っていました。任期を終えてから大船渡へ行った時は、すでに神戸大学と大船渡赤崎地区のつながりはとても深いものになっていました。



他方で、「震災とジェンダー」というテーマで、阪神淡路大震災以後の震災と女性の問題を研究・調査し、この研究結果が、国の復興基本計画に反映されました。私はこの研究に満足していましたが、しかし、この復興基本計画に反映していたはずのことが、東日本大震災では全く効果がありませんでした。これにショックを受けて、改めて研究しなければならないと研究プロジェクトを立ち上げて科研費を取りました。このプロジェクトに、ロニー先生に

もメンバーの一員として参加してもらいました。ポーポキはロニー先生ご自身で活動されていたことですが、研究プロジェクトに参加して頂いたことで、私はポーポキの活動に興味を持ちました。一度は行ってみたい、どういうことをしているのかを見たいという気持ちはずっとあり、ロニー先生にも連れて行ってほしいという意思是伝えてありました。今回、スケジュール上のタイミングが上手く合ったので、2月の活動に参加したという経緯です。簡単に言うと、阪神淡路大震災からの研究経緯と現実との齟齬があって、なんとかしなければと思っているところにロニー先生のプロジェクトがあったので見に行ったら、というところでしょうか。

Q.今回の大槌町訪問でどのようなことを感じましたか？

A.感じたことは、被災を乗り越えて前を向いて生活を成り立たせようとしている人の原動力とは何なのか、ということです。初対面の私たちに話をしてくれたシフォンさんは、津波で全てが流されるという経験をして、なぜあそこまで前を向いていられるのでしょうか。趣味

や得意だからという理由だけで、できたことではないはずです。十分傷ついているのにそれでも前を向いているということに感心でした。また、ぐるっとおおつちショップのある方は、「手作業をすることで無心になって忘れることができるんです」とおっしゃっていました。手を動かすことで無心になれるというのはわかりますが、きっとそれ以上のなにかがあるから、彼女たちはあそこに集い商品を作っているのだと思います。でも、まだそのなにかはわかりません。話す方も聞く方も涙浮かべながら、を繰り返すとだんだん共有物が増えてきます。悲しみを封印しないということにつながり、とても必要なことだと思います。私も阪神淡路大震災の被災者として、同じ目線で話を聞くことができるので、共感できることもたくさんありました。

被災者の今後の課題は、仮設を出た人の生活でしょう。仮設を出ることができるか、出た後の行き先がうまくマッチするかというのが現実の問題です。しかし、それだけではなく、まちづくりをどうやっていくか、という場面で意見を出すのは男性のことが多いです。女性の意見も取り入れるように変えていかないと、本当に災害に強い町にはならないと考えています。震災が起きると、どうしても犠牲者が出てしまい、仕事を失ってしまいます。そういうときでも生きていける仕組みをつくらないといけないと思います。これが一番の課題です。ハード面だと都市計画ですが、ソフト面から考えると、男性も女性もブレッドウィナーになるしくみが必要です。東北では、夫婦両方が稼ぎ手になるということが産業構造上難しいのが現状です。雇用労働者だけの問題だった阪神よりも難しい問題を抱えています。被災地だけでなく、日本・世界全体の意識の問題でもあるのです。



Q. 阪神淡路大震災と東日本大震災の違いは何ですか。

A. 阪神は、地震と火災による都市型の震災で、みんな被災者でした。でも、東北の津波の被害は、被害を受けているところと受けていないところの境界線がはっきりしていました。また、阪神は雇用労働者が大半を占めていましたが、東北は第一次産業従事者（漁、海産業）と雇用労働者を組み合わせて暮らしています。つまり、漁業があって、その周りに水産加工があって商業があって、さらに自営が成り立つ。皆が収入を合わせて生活しているわけです。こういうところで漁業がダメになったわけなので、まず漁業を復活させようとするのは当然のことでしょう。漁業は性別役割分業が厳しいため、まずは男性が漁に出ることが大事になります。男性が漁に出ないことには水産加工もできない、浜仕事も成り立たない。性別役割分業を再生産するかたちで復興しなければ、復興自体成り立たないという構造があって、この仕組みの上に人々の意識があります。震災直後の労働環境を見ても、男性は瓦礫撤去の仕事をして賃金を貰う一方で、女性は避難者のための炊き出しをしても賃金はありません。避難所内でも、女性が着替えるところや授乳するところがなくて、大慌てで作った阪神の経験を活かして、段ボールでパーテーションをつくるなどの処置を取ったところもありました。ところが、避難所によっては、みんな家族だから必要ないとい喝した男性もいて、処置がと



れなかったところもありました。

ここで感じたのは、被災者・被災地の支援の難しさです。どう支援したら、人々は前を向くことができるのか、批判だけでは支援に繋がりません。未だに答えが見つかっていないけれど、「実践」しようとしているのがポーポキの活動だと感じました。ポーポキの活動に参加することで、人がどう前を向いていくか、その向き方を探れたらと思いました。被災者・被災地支援をどうしたらいいかという答えの一つとして、

阪神からの課題を解決する出口になるかもしれないと期待しています。しかし、前を向くことに解決の糸口があるかもしれないが、まちづくりにジェンダーの視点が入っていないのも事実です。次また、東北以外の違う場所で同じ状況になるのを防ぎたいと思っています。

Q.今後の研究への展望をお聞かせください。

A.私の研究は、教育学のジェンダー論と言う領域です。学校教育も含まれていますが、主に、社会教育、つまりおとなの学習に関心を持っています。そうすると、おとなの生活には労働問題が入ってくるので、労働についての研究もしています。労働経済学者ではないので社会のしくみには関心あるけど研究はしていません。それよりも、人を対象にして、人がどう生きていくか、どう生きていけばいいのかを考えています。

問いを立て続けることが問題を解決する道になると考えています。問いがなければ永遠に答えは出てきません。答えることが難しい問題ばかりだけど、問いの立て方によっては答えに近づくことができると思います。震災に関して、被害をより多く受けさせられた女性が、どうやって前を向いていっているのかを知りたいのです。前を向ける人もいれば向けない人もいる中、彼らの違いには何が影響しているのかを知りたいと思っています。そうしたときに、前を向けない人を対象にするよりも前を向いている人を対象にした方がより答えに近づけるのではないかと、解きほぐしたいと考えています。

人々を、研究対象として分析するという冷静な目で見るとはなくて、一緒の目線で「なんで？」と考えています。つまり、自分の研究と現実の人とが一致するような研究です。同じ目線に立つという点では、ポーポキの活動と共通する部分があると思います。前を向く人によりそって彼らと一緒に歩み、問いを立て続けながらその理由（過程）をさぐる、という研究をこれからも続けていきたいです。

課題がまだまだ山積みであることを痛感しました。朴木先生、貴重なインタビュー有難うございました。



「未来を創るピースフォーラム」開催レポート

神戸 YMCA
国際奉仕センター
松田道子

2016 年 2 月 22 日、スティーブン・リーパーさん（元広島平和文化センター理事長）とアーニー・ガンダーセンさん（原子力発電の技術専門家）をゲストに迎え、核と人類と平和をテーマに、神戸 YMCA・コープこうべ・兵庫県ユニセフ協会主催、神戸 YMCA ・ポーポキ・ピース・プロジェクトの協力で「未来を創るピースフォーラム」を、コープこうべ生活文化センターで開催しました。会場は 130 名を超える人々が集まり、平和運動への関心の高さ、また核に対する恐怖の大きさを感じました。ユーストリーム動画の録画版がアップされています。2 時間 30 分です。<http://iwj.co.jp/wj/open/archives/288351>。

2015 年にニューヨークで行われた核兵器不拡散条約再検討会に参加したコープこうべの報告で始まり、ガンダーセンさんからは「原子力発電所の老朽化による危険性」が語られ、リーパーさんからは「平和文化を創りあげる大切さ」を教えてくださいました。アンケートには、避難されている方の心からの叫びや、反核運動者の強い意志、このようなフォーラムに初めて参加して事の重大さを学んだ方等々、様々な意見をいただきました。

今もなお福島、東北に住む方々、原子力発電所の近くに住む方、避難されているご家族、核産業に従事する方々、そして私たち、本当に多種多様な暮らしがあります。私たちが「平和」「原子力」「核」についての正しい知識を学ぶこと、自分の直感を信じて選び行動すること、行動する（意見する）一人ひとりを敬い互いに愛し合うこと、リーパーさんからのメッセージが心に響きました。

今回のフォーラムを主催した 3 団体は、これからも地域の人々とともに学び語り合う機会を設け、平和への歩みを続けることを約束しました。



『はだしのゲン』がウォールドロン島へ

かーめらにゃん

ANT ひろしまの渡部朋子さんのおかげで、全10巻の『はだしのゲン』（英語版）がウォールドロン・コミュニティ・ライブラリーに寄贈されました。ウォールドロン島は、アメリカのワシントン州にある小さな島です。定住人口は80名でそのうちの10名は子どもです。子どもたちは、部屋一つの小学校で学んでいます。このため、子どもも大人も戦争の恐ろしさや人間の精神力について一層知ることができるようになりました。

ご周知のとおり、『はだしのゲン』は、中沢啓二が広島の実体験を伝える漫画です。この本を通して、著者はきわめて明確に、そして巧みに戦争の残酷さや不条理を描いているので、読者は自らが体験しているかのように読めます。



写真：

ウォールドロン・コミュニティ・ライブラリーの前で理事のジュディ・ウィルグレスさんが島のコミュニティ全体を代表して『はだしのゲン』を受け取りました。

「奇妙な美しさ～福島から放射線を見る」展

福島第一原発事故から5年を経過したことを機会に「Remembering Hiroshima, Imagining Peace」は、「奇妙な美しさ～福島から放射線を見る」という森住卓の写真展をピッツバーグ大学の美術館で開催しました。展示はリサ・ラスミュッセンがデザインした25枚のパネルで構成されました。「風下の人々」と題する最初の4枚は、写真家のコメントや住民の証言を交えての福島県で暮らす人々や風景といった内容で、残りの20枚の紹介となりました。それぞれのパネルに残されたもの（帽子、ボール、植物、靴など）が2枚載っています。大きな一枚は、放射能を可視化する「奇妙な美しさ」でもう一枚はそのままの物で



す。

写真家の言葉は、問題の緊急性を示し、心に訴えるものです。展示は3月15日～18まで開催されました。15日にはレセプションの後、パネルディスカッションが行われました。

森住さんは福島県からスカイプで参加しました。除染された土が入っている袋を背景（左下の写真）に福島の現状について報告しました。ピッツバーグ在住のジャズバイオリン奏者、ケイ・ラッシュ氏が森住さんの通訳を努めました。ピッツバーグ大学の卒業生でフルブライト奨学生のゼバ・アーメドさんは、日本や福島での体験について報告しました。生物



学者でレーチェル・カーソン専門家のパトリシア・デマルコ博士は、放射能や安全な保管方法がない放射性廃棄物の危険性について話しました。（下記の写真左：ゼバ・アーメド；右：デマルコ博士。）



この展示およびパネルディスカッションは、福島原発事故のことに脚光をあて、原子力の危険性や問題に人々の注意を引くことに成功しました。この展示パネルは、簡単に移動することができ、8月の広島・長崎原爆投下の時期にも再度展示する予定です。

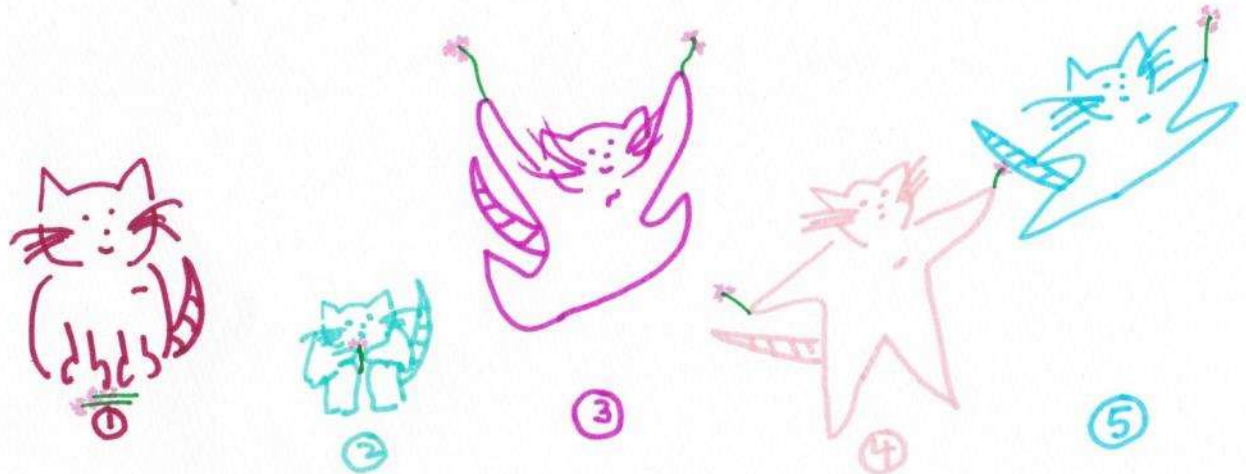
「奇妙な美しさ～福島から放射線を視る」展は 「Remembering Hiroshima, Imagining Peace」、Center for Disaster Management; Department of History of Art and Architecture; University of Pittsburgh Art Gallery およびポーポキ・ピース・プロジェクトの開催、Scenic Corporation of New York および Asian Studies Center of the University Center for International Studies, University of Pittsburgh の協力のもとで開かれました。



ポーポキちゃんの簡単ポガ教室

Lesson 93

今月のテーマは、春を楽しむことです(ほかの季節のみなさん、ごめんなさい)！



1. まず、いつものように、美しく座りましょう。花を2厘、前を置いておきましょう。
 2. では、花を持って、しゃがみながらできるだけ小さくなりましょう。自分の鼻を花に近づけて、大きく吸って！香を楽しみましょう。
 3. つぎに飛び上がって、高～くなりましょう！
 4. そして最後に立って、手や胸を大きく開きながら大きく息を吸いましょう！
 5. できてもできなくてもがんばりましたね。では、「できたポーズ」をどうぞ！
- お疲れ様でした。少しリラックスできましたか？毎日、深呼吸・笑・リラックス、そしてポガを最低3分間練習しましょうね。

一緒にいかが？



次回のポー会： 4月20日 19:00～20:20 神戸 YMCA

2016. 3. 31 ポーポキのミニ平和映画祭 18:30～20:30 神戸YWCA
どなたでも参加できます！ 詳しくは本号2ページをご参照ください。

ポーポキの友だちからのお知らせ

・新刊案内！ 赤城修司『Fukushima Traces 2011-2013』 オシリス 2015年3月20日。
すてきな写真集です。注文などは：下記のサイト又は前田圭子さんへ。

m.dodo@h2.dion.ne.jp <http://www.shashasha.co/en/book/fukushima-traces-2011-2013/>

Popoki in the News

ーポキ通信のバックナンバー: <http://popoki.cruisejapan.com/archives.html>

- 関西国際交流団体協議会の「デジタルアーカイブ(WEB版の事例集)にポーポキ! <http://www.interpeople.or.jp>
- 『平和を考える絵本出版 被災者支援きっかけに』『神戸新聞』(貝原加奈 2014.4.25 28面)
- 「ボランティア 37 団体に助成 大和証券福祉財団」『神戸新聞』(2013.8.23 朝刊 地域経済 8面)
- 「原爆の熱線で焼き付いたー “人影”再現、非核誓う」『神戸新聞』(2013.8.7 朝刊 22面)
- 「被災 秘めた思い描いて」「ひとと抄」『読売新聞』(2013.2.16 夕刊 4面)
- 広岩近広 『安全』『安心』の社会は足元から、ロニー・アレキサンダーインタビュー 『毎日新聞』2012.10.29 (「今、平和を語る」、夕刊、1面)
- R. Alexander. “Remembering Hiroshima: Bio-Politics, Popoki and Sensual Expressions of War.” *International Feminist Journal of Politics*. Vol.14:2:202-222, June 2012
- 「ポーポキと一緒に作り出す平和の根底に 9 条がある」NO : 66 2012 年 5 月 12 日[子どもと守る9条の会]
- 「布に希望 60 メートル」阿久沢悦子 『朝日新聞』 2012.1.21 (兵庫・29面)
- 「平和祈る声まとめ本に」 斎藤雅志 『神戸新聞』 2012.1.19 (伝える 1・17 3・11、22面)
- K. Wada. “Conversations with Ronni Alexander: The Popoki Peace Project; Popoki, What Color is Peace? Popoki, What Color is Friendship?” *International Feminist Journal of Politics* Vol.13, No.2, 2011, 257-263
- S. McLaren. “The Art of Healing” (Popoki Friendship Story Project) *Kansai Scene*. Issue 133, June 2011, p.10. kansaiscene.com
- R. Alexander. (2010) “The Popoki Peace Project: Creating New Spaces for Peace in Demenchonok, E., ed. *Philosophy after Hiroshima*. Cambridge Scholars Publishing, pp.399-418
- 「省窓」『神戸青年』 No.606 2011.1.2 p.1
- No.1 『「ポーポキ、平和って、なに色？」の背後にあるもの」(連載) とさぼりライフ第 19 号 2010.10:4
- 堀越健志「シリーズ:こくさいのまで⑮(パレスチナについて)『神戸青年』 No.604 2010.9-10
- 「みんなでやれば、何にかが変わる！」 THE YMCA No.607 June 2010, p.1
- [ヒロシマと世界: 被爆地の声 非核と平和、復興と再生、許しと命の尊厳訴え] http://www.hiroshimapeacemedia.jp/mediacenter/article.php?story=20100312140608602_ja
- 2010.3.15 中国新聞 ヒロシマ平和メディアセンター
- FM COCOLO 76.5 ‘Heart Lines’ 2010.1.9 Interview: Ronni on Popoki in Palestine
- “Human Rights, Popoki and Bare Life.” *In Factis Pax Journal of Peace Education and Social Justice* Vol.3, No.1, 2009, pp.46-63 (<http://www.infactispax.org/journal/>)
- 西出郁代 「ポーポキ、平和って、なに色？ロニー・アレキサンダーを迎えて」『PPSEAWA』(日本汎太平洋東南アジア婦人協会) No.63 2009.12, p.5.
- 「友情」第 2 号 2009.11 伊丹市国際・平和交流協会 年間事業報告 pp.1-2
- 「ともに・・・」 No.29 2010.1 家庭と保育所、学校園、地域を結ぶ在日外国人教育情報誌 ポーポキ・ピース・チャンレジ情報 p.12
- 区民情報誌「なだ」 2009.12, p.2. ポーポキ・ピース・チャレンジ情報。
- 「『ポーポキ、友情って、なに色？』」「私のいち押し」奥田光子 THE GAIDAI 2009.7.17 No.243 (関西外大通信)
- 「友情って・・・考える絵本」朝日新聞「生活」(阿久沢悦子) 2009.7.2
- 「友情を考えて人間と、ねこと、そして自分と～」れ組通信 RST/ALN 2009.6.28 No. 259, p.11
- 「カティング・エッジ」第 35 号 2009.6 (北九州市立男女共同参画センター「ムーブ」)「新刊紹介:『ポーポキ、友情って、なに色？ポーポキのピース・ブック 2』(レベッカ・ジェニスン) p.3
- 「猫を通して平和を考える 絵本の第 2 弾を出版」(斎藤雅志) 神戸新聞 2009.4.21
- 「ポーポキ、平和ってなに色？」KOBE YMCA NEWS「神戸青年」2009.3.1 No.593 p.2
- 「ポーポキ、ゴミってなに色？」KOBE YMCA NEWS「神戸青年」2009.1.1 No. 592 p.2
- 「友だちになってくれませんか？」RST/ALN 2009.2.22
- ラジオ番組の中のポーポキ!!! プロジェクト・メンバーの宇留賀佳代子さんがラジオ番組で紹介してくださいました。ぜひお聞きくださいね。 <http://www.kizzna.fm/> 録音番組。(リンクは現在無効)
- やさしいからなんです展パート20 実行委員会『世界人権宣言』ひょうご部落解放・人権研究所 2008. 10 500 円。詳しくは: blrhyg@osk3.3web.ne.jp
- 「KFAW カレッジ ロニー・アレキサンダー氏 講演会」エイジアン・ブリーズ/Asian Breeze No.54 October 2008, p.8 (アジア女性交流・研究フォーラム)
- 「ピースセミナー in 熊本 あなたにとっての「平和」とは？」Kumamoto YMCA News 10; Vol.437 October 2008, p.1
- 神戸新聞「人権宣言 兵庫から発信 全 30 条 イラストで表現 地元ゆかり 6 名がパネル制作」2008.10.8 10面





私にとってのポーポキ

けんにゃん

ここ数年、私はたくさんの小学生と出会った。

元気な子。

おとなしい子。

真面目な子。

好奇心旺盛な子。

人の話を聞かない子。

よく笑う子。

泣き出す子。

ケンカする子。

何でも質問してくる子。

落ち着きがない子。など…

本当に色々な性格の子供達がいた。

子供達は気持ちをそのまま出してくる。

面白い時は笑い、つまらない時は話を聞かない。

それがとても面白かった。

そんな素敵な子供達に、私は子供扱いをしなかった。

1人の人間として接した。

私の気持ちもそのまま出した。

そうすると子供達は自然に反応してくれる。

たくさんの子供達と楽しい時間を過ごせた。

心を開くってとても大切だと思う。

笑う事も、泣く事も、喜ぶ事も、怒る事も、

全ては美しくて自然な事。

その経験が出来て、とても良かった。

私はまだポーポキと出会って日はまだ浅いけど
ポーポキには色々な事を考えさせられ、いろんな意見を聞き、
刺激となる居場所。

そして私が感じた、子供達との幸せを、

ポーポキとも共有出来たら嬉しいな～。

そんなポーポキの事をもっともっと知りたいと思った。

さらにご協力ください！



ポーポキ・ピース・プロジェクトは、『ポーポキ、平和って、なに色？ポーポキのピース・ブック1』（エピック、2007年）、『ポーポキ、友情って、なに色？ポーポキのピース・ブック2』（エピック、2009年）、『ポーポキ、元気って、なに色？ポーポキのピース・ブック 3』を題材に、全身で平和の意味を探り、一人ひとりの「発見」を平和の創造に役立てようとする小さな平和活動団体です。また、2011 年に起こった東日本大震災をきっかけに活動をしており、『ポーポキ友情物語 東日本大震災で生まれた私たちの平和の旅』という本を 2012 年 1 月に発行しました。2006年に設立されて以来、日本国内外で幅広く平和のためのワークショップなどの開催を続けてきました。活動の資金はすべて本の売上や寄付によって行っています。

これからも平和を考えるためのピース・ワークショップ、読み聞かせ、ピースキャンプ参加、ポーポキのピース・ブックの翻訳（『ピース・ブック1』は既に10カ国語に翻訳されている）、『ポーポキのピース・ブック3』の執筆などの活動を中心に活動が続ける予定です。定期例会「ポー会」を月に一度のペースで開催しています。一緒に活動なさいたい方はぜひご参加ください。（ポー会の開催については、ポーポキ通信の「ご一緒にどうぞ」の欄をご参照されたい。）

また、こういった活動に対してのご協力、ご支援をぜひお願いしたいと存じます。本の購入・寄付・本についてのコメント、感想、注文などについては、popokipeace@gmail.com へお問い合わせください。

なお、本についての問い合わせや注文は、お近くの書店、アマゾン、あるいはエピック（TEL: 078-241-7561・FAX: 078-241-1918）へどうぞ。

ポーポキ・ピース・プロジェクト [popokipeace\(at\)gmail.com](mailto:popokipeace(at)gmail.com)

<http://popoki.cruisejapan.com>



郵便振替口座番号 00920-4-280350

ゆうちょ銀行 店番099 店名099店 当座 口座番号0280350

口座名 ポーポキ・ピース・プロジェクト神戸

ポーポキ平和募金は一口 1500 円 何口でも結構です。



THANK YOU FROM POPOKI!!